

鈴木敏正

10月例会 議事録

日時： 令和2年10月1日(木) 19:00~20:30

場所： 川本本店 茶論[縁](さろん「えん」)

出席者 11名 川本 阪田 阪田 杉田 鈴木 清野 長谷川 藤原 牧 松尾 吉田

新型コロナの影響が続いており、マスクの着用、例会時間の短縮、換気の確保など感染防止に対応しながらの例会となりました。

- 1 11/25(水)実施、坂本周辺散策の参加者を確認しました。総勢 30 名。緊急事態宣言のないかぎり、実施します。
- 2 12月2日(水)~3日(木)に1泊2日、パナソニックリゾートでの忘年会の参加者を確認しました。
日帰り6名 1泊2日4名 合計10名。 16時15分現地集合です。
- 3 堺散策、芦屋周辺散策など今後の予定は、2ページに掲載しています。
- 4 阪急茨木市駅西口の周辺整備の計画が令和2年度に決定し、令和5年度に工事着工、令和11年度に完成予定です。次回11月の例会で市会議員の方に来ていただき詳細を説明していただくことにしました。駅前高層ビルの概要、そのテナント、商店街との共存などが内容です。昨年5月の例会で、茨木市のこれからについて説明していただいた方と同じ議員です。今回は二回目となります。
- 5 その他の質問としては、新市民会館の概要・阪急茨木市駅東側への病院誘致などがあります。当日の質問内容を7ページに掲載しています。
- 6 次回11月号の街 ing コースは通常通り10/25発行、12月号は坂本散策の記事掲載のため11/30を予定。
- 7 広報いばらき10月号で、観光協会の石田さんが元茨木川緑地を紹介されています。
- 8 次回の例会は11月5日(木)です。



今後の街 ing 活動予定

紅葉狩り 滋賀県坂本周辺 昼食予約の関係上、よほどのことがないかぎり実施します。

実施日 11月25日(水) JR 茨木駅 8時30分集合 京阪坂本 17時頃解散

見どころ 坂本は比叡山延暦寺の門前町として栄えました。明智光秀が「坂本城」を築いた地域でもあります。今

話題の坂本で紅葉狩りを楽しみます。昼食は石積み御前 3,300円。

参加者 川本 川村 阪田 阪田 笹嶋 鈴木 清野 田中 南野 長谷川 藤原 牧 松尾 松岡 吉田 吉田 B

パソコン 13名 牧友人 1名 計 30名 <10月号掲載より1名増加>

パナソニックリゾート

実施日 12月2日(水)～3日(木) 1泊2日

参加者 <日帰り> 入交・阪田・笹嶋・鈴木・清野・南野 <宿泊> 阪田・杉田・牧・松尾 計 10名

見どころ 所在地は吹田市ですが、モノレール宇野辺駅より徒歩 10分です。パナソニックの保養所でしたが、現在では一般の方も利用できます。今回はかに料理を堪能します。

堺周辺 Part2 <Part1は2019年11月27日(水)に実施済み>

実施日 令和3年3月以降を予定

見どころ 仁徳天皇陵と古代の世界。

お花見

実施日 令和3年4月1日(木)

行先 武田尾 JR 福知山線

廃線跡を歩きます。コロナのため1年延期となりました。来年は終息していますように。

芦屋周辺

実施日 令和3年4月～5月を予定

見どころ 高級住宅街の六麓荘・ヨドコウ迎賓館を訪ねます。田中さんに企画していただきます。

吹田市中西家

実施日 令和3年5月～6月 日程は未定

見どころ 中西家は江戸時代後期の大庄屋の屋敷を当時のまま伝えています。JR 岸部より徒歩 10分。江戸時代の建物です。重厚な屋敷構えや建築物、華麗な庭園や家具調度品を見学できます。

詳細は未定 長谷川さんに企画をお願いしています。

令和3年夏以降の計画

- ① 令和3年10月 綿業会館見学会
- ② 令和3年11月 日本銀行見学会
- ③ 今城塚古墳



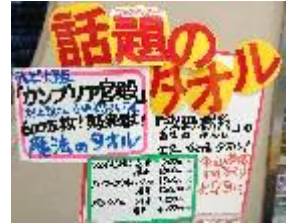
POP（ポップ）について

杉田 宗三

「POP」って何か？ パソコンに親しんでいる人はワードのフォント内のいわゆる「ポップ体（ポップ書体）」を思い浮かべるかも知れませんが、販売店関係の方々は「店頭広告物」のことだと思わでしょう。

そして今は、後者の「POP」が注目されています。

元来は紙を広告媒体としてその上に商品名と価格、またはキャッチコピーや説明文、イラストだけを手描きしたものであり、数ある広告媒体の中でも単純なツールの一つでした。しかし、POP 広告は個性的な店の雰囲気を作り上げる力があり、POP 一つでその商品、ひいては店舗の売上を左右するとまで言われるほど、実に優れた力を持っていることに注目が集まってきたのです。



語源的には、英語の Point Of Purchase（ポイント・オブ・パーチェス）の頭文字を取ったものです。意味は直訳すると「購買時点」となり、「購買時点広告」や「購入意欲促進広告」などと意識することができ、客に商品を買ってもらうための広告・宣伝物の総称となっています。

含まれるものは、プライスカード（棚札・棚ラベル）や商品説明カードなどの商品の直近に設置されるものから、商品を飾るスタンド、店舗の店頭や店内に掲示されるポスター・パネル・のぼり・天吊り、商品をピーアールするキャラクター人形まで、様々なものがあります。

最近では、更に広い意味に解釈されイベントや会員募集などのチラシやポスターおよびその他の広報物などもPOPの範疇に入るようになり、いろいろな形の「POP教室」なども開設されています。茨木パソコンクラブでも今年からワードで作る「POP講座」を公開講座として始めました。

なお、今年の茨木パソコンクラブ作品展は、新型コロナウイルス対策のため例年と違い、11月末からきりめきの1階展示コーナーで12日間に亘って作品展のみを行います。

POP作品もここに展示します。

ご一覽頂ければ幸いです。

2020.07.26 日山

無料公開講座

募集

お気軽にご来場ください

日時	11月14日(土) 9:00~11:45
場所	生涯学習センター3階会議室(畑田)
対象・定員	文字入力ができる、パソコン(マウス)を持参できる方・先着10名
内容	パソコンで出来るお絵かき、ポスター・スライド作成など
主催	茨木パソコンクラブ
後援	茨木市・茨木市教育委員会

申込要領：表題「公開講座」をお名前、おところ、電話番号 e-mail を記入し、下記宛にお申し込みください。

申込先：茨木パソコンクラブ e-mail: s.katayama@nifty.com 日山市正

第21回

作品展のご案内

茨木パソコンクラブ

展示日：2020年11月29日(日)13時から
12月10日(木)12時まで
場 所：茨木市立生涯学習センター1階展示コーナー

- ★ワードアート★POP★お絵かき
- ★パワポ★フォトショップ
- ★パワポ★ポイント★エクセル
- ★ワード★スクラップ
- ★アニメーション

コロナ自粛で大変な1年でした
作品を楽しんで頂ければ(♡▽♡)
ご来場をお待ちしております

【主催】茨木パソコンクラブ

「無言館(遺された絵画からのメッセージ)」

技 彰

昨日、「神戸ゆかりの美術館」で「無言館(遺された絵画からのメッセージ)」展(2020年9/12~11/29)を見てきました。かつて「画家になる」ことを夢見ていた戦没画学生たちの遺作が一堂に展示されています。昭和20年終戦直前に、戦地で死亡を確認された学生の何と多いことか！本当に残念無念。とても、とても心が痛みました。平和との落差が大き過ぎますよね。

是非行かれては！

メル友・田中孝佳さん(「街ing いばらき」会員)から、心に響く有益情報を戴きました。「無言館」については、日曜美術館(NHK教育テレビ)「無言館の扉 語り続ける戦没画学生(8/9)」で学びましたが、阪神間で巡回展示しているとは終ぞ知りませんでした。そこで、仲間を誘って早々と赴いたのです。

「神戸ゆかりの美術館」は、神戸で育まれた芸術・文化を広く発信するために、「神戸ファッション美術館」北側展示空間を改修し、2007年3月に開館しました。主に、神戸ゆかりの芸術家たちの作品を約1,200点所蔵し公開しています。

「無言館(遺された絵画からのメッセージ)」展では、今年(2020年)が戦後75年の節目になるため、「無言館」に常時展示されていない作品や地元兵庫県出身の戦没画学生などの約130点の絵画を、「望郷」「家族」「自我」「恋」「夢」の5章に構成して展示しています。

地元出身の戦没画学生たちには、まさしく「里帰り展示」といえましょう。また、各作品に付随する短い解説などもあって、とても鑑賞し易い環境と思われます。



こくち 武「編みものする婦人」

戦没画学生たちが描いた絵の放つ不思議な力、不思議な光とは一体何でしょうか？彼らはまだ画家として半人前であり、職業画家の半分の技術、力量も備えていません。何しろ学業半ばで草でも筆ふでられるように戦地に行かされ、そのまま帰ってこなかった不憫な学生たちです。彼らの絵が、いわゆる完成された画家たちの絵に比べて、芸術的にも造形的にも見劣りするのはいささか仕方のないことです。

でも、訪れた多くの人は、「絵の前に立っただけで涙が出ました」「絵を見て、こんなに感動したのは初めて」との感想を漏らすのです。何故斯くまで、戦没画学生たちの絵が観る人の心を打つのでしょうか。

館内に足を踏み入れた人たちが一様に胸を詰ませ涙ぐむのは、学生たちの絵を描くことに費やされた時間の持つ、いわば魂の静けさとでもいうべきものに思いを馳せるからではないでしょうか！？

薄暗い館内を巡りながら思うことは、「彼らはみな若い」ということです。こうした画学生の遺作・遺品を前にすると、彼らに与えられた「制限時間付の人生の切なさ」に感じ入らざるを得ません。そのような「制限付人生」であったが故に、「如何にその時間が濃密なものであり、充実したものであったか！」ということに改めて気づかされるのです。

しかし、考えてみれば、彼らは今なお若いままでそこにいます。彼らが残した作品は、彼らがその絵を描いた時の若々しいタッチのままで、まだちっとも色褪せない艶やかな色彩のままで70有余年後の「無言館」の壁に飾られています。彼らが描き残した作品の中にある彼らが生きていた時間は、今も変わらずにその絵の中で鼓動し続けているのです。

この時間こそは、彼らがまだ輝きを失わない「永遠の青春」といえないでしょうか？それ故に、戦没画学生の描いた絵は、今なお静かに、そして生き生きと私たちの心にも迫ってくるのでしょうか。

戦没画学生慰霊美術館「無言館」とは！

長野県上田市の郊外、信州の鎌倉といわれる塩田平の浅間山や千曲川を遙に望む丘陵に、1997年5月開館。館主・窪島誠一郎氏（作家・1941年生・実父は水上勉）が欧州僧院に擬えて自ら設計し、コンクリート打放しの無機質で些か無粋な内外装仕上げが、如何にも「無言館」の名称に似つかわしい。

「無言館」では、先の戦争で亡くなった画学生たちの作品を、出征経験ある画家・野見山暁治氏の意志を受け継いで、館主自ら全国各地に遺族を訪ね譲り受けて収集・展示している。

開館当初から「戦争の悲惨さ」や「平和の尊さ」を伝える私設美術館として全国的な話題を呼んで、テレビ・新聞・雑誌などのメディアにも紹介され、今では年間平均10万人を超える来館者がある。



長野県上田市古安曾字山王山 3462 ☎0268-37-1650

戦没画学生の絵画は、何も語らず「無言」である。また、来館者も絵画を観てひたすら「無言」に徹するとか！「ムゴンカン」の命名理由は「画学生たちの作品は無言であっても、その作品が観るものに語り掛けてくる言葉は頗る多弁である」というもの。画学生の「無言」は単なる沈黙を意味するのではなく、伝えるべきあまりにも多くの言葉を内包する「無言」ということのようなのである。

しかし、ことによるとこの「無言」は、画学生の絵の前に立つ私たちの方が言葉を失い、「無言」で佇むしかないという意味なのではないか。それは、彼らの絵を前にして私たちが抱かざるを得ない心の静寂というか、自ら自身に問いかける自問の時間とっていい「無言」に他ならないのである。

日本は、1931年の満州事変から、37年の日中戦争、41年のアジア・太平洋戦争を経て、敗戦の45年8月に至るまで、約15年に及ぶ戦争を遂行してきたが、これらによって、2,000万人超のアジア諸国民が犠牲になり、約310万人にも及ぶ自国民が生命を落としたといわれている。そして、そうした戦争犠牲者の中には、前途ある多くの若者たちが含まれている。

将来一端の画家になりたい、好きな絵を描きたいと願っていた多くの画学生たちがその夢を果たすことなく、無為無策で非情な戦争に駆り出されて死んでいったのである。

出征前の限られた時間に、自分が愛した妻や恋人、敬愛する父母、可愛い妹や弟、懐かしい故郷の山河などを描き残し、彼らは握っていた絵筆を銃に持ち変えて、黙々と戦地へと赴いたのだった。

これらの戦争で失われた芸術家志望の青年の生命は、決して画学生だけに限らない。戦没した若者の中には、音楽家を目指した者、演劇を学んでいた者等など。そうした若者たちの尊い生命を、戦争は容赦なく奪い去るのである。また、戦争は若者たちの生命だけでなく、将来彼らが生み出すはずの多くの作品をも奪い去るのである。

私たちは、戦争が多くの若者たちから「自分を表現する欲び」、延いては「人を愛する欲び」を無残にも奪っていった事実を決して忘れてはならない。

そんな悲惨で痛ましい時代の中で、「無言館」は、絵に情熱を傾けた若者たちの「青春の発露」「生命の輝き」を伝える唯一の小さな、小さな美術館なのです。

元茨木川緑地の魅力をアップ

阪田 浩

元茨木川緑地は、豊かな緑とサクラ並木がある茨木市を代表する緑地です。全長 5 キロにわたって歩道が整備されています。水が流れていた当時の茨木川は、川幅が狭く天井川であったことから江戸時代よりたびたび氾濫を起こしていました。昭和 9 年と 10 年には豪雨により堤防が決壊、特に昭和 10 年には市内の大部分が浸水しました。

度重なる洪水を防ぐため、田中付近で茨木川を安威川に合流させる工事が始まりました。昭和 12 年のことです。昭和 18 年に付け替え工事が終了、昭和 24 年には合流地点より下流の茨木川が廃川(はいせん 人工的に廃止された川)となりました。合流地点には「合流の碑が」設置されています。街 ing では平成 31 年 1 月に観光協会石田さんの案内でここを訪ねました。廃川後、旧茨木川はゴミ捨て場のような状態でした。約 20 年後の昭和 45 年、茨木川を元茨木川緑地として整備される都市計画が決定されました。工事は昭和 49 年に北側から順次開始されます。16 年後の平成元年元茨木川緑地計画がすべて終了しました。

この緑地も、開設から 40 年が経過し、老木の増加や施設の老朽化が進みつつあります。今後も茨木市中心部の魅力あるスポットとして市民から親しまれるように、茨木市では元茨木川緑地のリニューアルを計画しています。その第一段階として現在、自治会座談会やシンポジウム(討論会)、市民ワークショップが開催されています。

そのワークショップが 10 月 4 日に行われ、参加してきました。街 ing の吉田さんも出席されていました。今回は川端会館から高橋までの区域について、どのようなものがあれば魅力がアップするかについて話し合いました。

感想としては、多くの意見を聞くと、相反する意見がでて調整がむずかしいということです。

- ① 桜祭りを盛り上げたい。一方、あまり PR やイベントをせずに、今の環境を維持してゆっくりと鑑賞したい。
- ② 茨木神社に直接入れる道路を新設してはどうか。対して、神社は神聖な場所なので、鳥居をくぐって入る現状を大切にしてほしい。
- ③ 市役所前にある高橋はアンダーパスの勾配が急で自転車事故が起こりやすい。廃止して上の横断歩道を渡るようにしてはどうか。反対意見は、廃止すると上の横断歩道への自転車と歩行者が増加するし、かえって危険性が増える。
- ④ 緑地部分を削り自転車道路を整備する。反論があり、緑地部分が減り魅力がなくなる。

意見の調整には、両方の意見を取り入れるか、どちらかを選択するかになります。10 年後くらいにリニューアル工事が終わった時、自分の意見が一つでも取り入れられて入ればうれしいですね。

今回のワークショップは 11 月 21 日(土)です。市役所公園緑地課に申し込めば、参加できます。

どうなる これからの茨木

次回 11 月 5 日(木)の例会には、市会議員の方に参加していただき、今後の茨木市について説明していただきます。質問内容は次の 10 項目です。最新の情報を語ってもらいます。ぜひご参加ください。なお、コロナ対策もあり当日 20 時 30 分には終了する予定です

質問事項

- ① 前回(昨年 5 月)、阪急茨木市駅西側の再開発は 10 年後をメドにしているとのことでした。その後の進展状況はどのようになっているのでしょうか。高層ビル、駅前広場、誘致テナントについても説明していただけますか。
- ② 前回、阪急茨木市駅東側を再開発し病院を誘致しているとの説明をいただきました。その後の進展はどのようなのでしょうか。病院が決まらないと再開発はできませんか。バス・タクシー乗り場を東口に集約するという構想はありますか。
- ③ 新市民会館の高さ・設備などの概要を説明いただけますか。建物北側に樹木が植えられています。日当たりが悪く植物の生育に適していないと思われそうですが、対策はたてられているのでしょうか。
また、建物屋外に植物を植えると、蚊の繁殖が予想されます。水やりなどの維持費も必要と思われるのですが、折り込み済みなのでしょうか。
- ④ 前回の説明では、JR 茨木西側の再開発は検討・協議の段階とのことでした。1 年半経ちましたが、進展はありましたか。
- ⑤ 彩都に大規模商業施設が建設されるという新聞記事が前回ありました。計画だけとの説明でしたが、その後具体的な動きはあるのでしょうか。
- ⑥ 西河原交差点(かに道楽に行く道路)の立体化は 3 年後には完成とのことでした。あと 1 年半です。工事は予定通り進んでいるのでしょうか
- ⑦ 元茨木川の紹介が 10 月号の広報で紹介されています。散歩道としては素晴らしいのですが、自転車と歩行者との共存が不十分だと感じます。自転車の走行制限などについて、茨木市の見解はあるのでしょうか。
- ⑧ コロナの患者数が増加しています。人口比でみて、患者の数は周辺自治体と比べて高いのでしょうか。茨木市独自の対策はなされているのでしょうか。
- ⑨ 工場の跡地に物流倉庫の進出が目立ちます。工場があれば工場労働者の増加で経済活性化が期待できます。物流倉庫の進出で茨木市にはどのようなメリットがありますか。
- ⑩ 大日本住友製薬工場が閉鎖するとのことでした。跡地はどうなるのかご存じですか。

以 上

次回『街ing いばらき』例会のご案内

日 時: 11 月 5 日(木) 19:00～20:30

場 所: 川本本店 茶論「縁」(サロン「えん」)

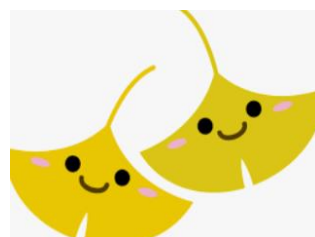
住所: 茨木市上泉町6-29 TEL: 072-624-5552

- 内 容: 1. 11 月 25 日(水)の坂本周辺散策 参加者の再確認
2. 12 月 2 日(水)～3 日(木)のパナソニックリゾートの確認
3. 市議員との懇談会

『街ing いばらき』とは?

茨木のまちづくりを考える市民グループです。といってもあまり硬いことではなく、月一回の例会や年 3 回程度の街歩きを行なっています。参加資格は問いません。入会に関心のある方は、お問い合わせください。とりあえずのご見学や、イベントの単発参加も歓迎します。

入会金 1,000 円 会費 年間 2,000 円(一か月 170 円)



《 編集後記 》

- 2020 年はコロナで明け暮れたとして後年に伝えられる年になりそうです。こうした中でも、茨木市ではビッグプロジェクトが進行しています。阪急茨木市駅の整備、新市民会館の建設、元茨木川緑地の整備、阪急茨木市駅東口への病院誘致、JR 茨木西側の整備などです。
- こうしたプロジェクトの進行具合について、市議員から次回の例会で説明してもらえることになりました。普段の生活ではなかなか分からない内容もあります。次回例会にはぜひご参加ください。会員の方々からの要望が、茨木市の計画として実現するかもしれません。
- 11 月の坂本散策までは、コロナの状況が深刻化せず当日の天候もまずまずであって欲しいです。ついでに、台風や豪雨がこのままの少ない年となりますように。

《 編集・発行 》

阪田 浩 〒567-0881 茨木市上中条一丁目 10-22
Tel/Fax 072-627-3480 e-mail: ibarakisakata@crux.ocn.ne.jp
街ing ホームページ : <http://www.machiing-ibaraki.com/>

ホームページは杉田さんが作成されています。ときどきはのぞいてみてください。

2020 年 10 月現在での訪問者は 9,180 <前月比 20 の増加> となっています。

